

賀正

## A HAPPY NEW YEAR

☆あかねさす紫の行き標野行き野守は見ずや君が袖振る  
 ☆むらさきのほへる妹を憎くあらば人づまゆゑに吾恋ひめやも  
 と歌い合ったのは、昔々の額田王と大海皇子です。何とも雄大な恋の歌だとは思いませんか？実はこの歌の背景にも、ドロドロとした人間関係や政治的なことがあるわけですが、今回のところは別のはなしをします。(知りたい方は井上靖の『額田王』でもご一読下さい。)

時代は江戸、正月。ちゃきちゃきの江戸っ子たちが、めでてえ、めでてえと話していた頃に、枕の下に宝船の絵を敷いて、これからある一年に夢と希望を抱いていたのです。「姫はじめ」という言葉があって、江戸っ子たちは「秘めはじめ」とかけて、



☆宝船しわになるほど女房こぎ  
 ということになるわけです。そこまでいかにしても、  
 ☆松の内うちの女房にちょっとほれ  
 といきたいもんですね。江戸っ子たちは粋な川柳を残して、  
 正月を、そして時代を遊んでいたのではないのでしょうか。

## COLUMN



私は28才の男性です。  
 私の職業は、青山にある劇団のプロデュースです。といっても、まだ駆け出しです。12月には、学生以来初めてペンをとった脚本で、脚本家デビューいたします。  
 さて、私は、とある女性と下北沢で一緒に暮らしています。  
 まあ、素晴らしい女性です。  
 どう素晴らしいかという、不思議な優しさを備えているからです。  
 今日、彼女に婚約指輪を贈りました。ふたりで休みをとって、葉山で催された「宝石鑑賞と料亭日影茶屋の匂を味わう会」に出席し、宝石鑑賞をして、匂を味わって、ついでに婚約指輪を買いました。彼女は、とても喜んでいました。  
 自分の想い入れのある人を喜ばすことができるのはいい事です。  
 ミルクホールにはオープン当初からよく来ました。実家が鎌倉にあるからです。あの頃から思えば、いろいろな事があり、いろいろな事が過ぎ去り、それは、私と出会う前の彼女に仕たって同じ事でしょう。  
 まあ、男と女が会って、供に生活を、一緒に人生を歩み出すというのは不思議なものです。  
 ところで、私は志の大きな人間でいたいと思っています。明日も頑張らましよう。

私はもうすぐ25才を迎える女性です。  
 私の職業は、青山にある児童福祉施設の音楽プランナーです。といっても、まだ駆け出しです。

さて、私は、とある男性と下北沢で一緒に暮らしています。  
 大変(?)素晴らしい男性です。  
 どう素晴らしいかという・・・  
 今日、彼から婚約指輪をもらいました。一日休暇をとってくれ！と言われ、何も知らされぬまま鎌倉まで連れて来られ、葉山で催された「宝石鑑賞と料亭日影茶屋の匂を味わう会」に招待され、宝石鑑賞をして匂を味わって、ついでに婚約指輪をもらいました。  
 彼は得意満面でしたが、ちょっぴり照れくさそうでもありました。  
 自分の想い入れのある人、おどろかされるのも、たまにはいいものです。  
 この店に来たのははじめてです。  
 実家は厚木にあるからです。でも厚木にずっと住んでいた訳ではありません。海老名、玉川学園、長野、前橋、そして松本・・・  
 とにかく、私は人一倍多くの人と出会い、人一倍多くの別れを経験しました。  
 そして、今ある男性と出会い、一緒に人生を歩み出そうとしています。  
 ところで、私はほどほどに志を持った人間でいたいと思っています。  
 明日も頑張らましようね！

Milk Hall より

明けまして、おめでとうございます  
 昨年は、ミルクホールを御愛顧頂きまして、有難うございました。  
 本年も宜しくお願い致します。  
 今年も、皆様にとり幸い多い年でありますように心よりお祈り致します。

営業時間のお知らせ

お正月は、大みそかより1月10日まで休まず営業しております。  
 大みそかより元旦にかけてオールナイトで営業致します。

どうぞお幸せに……



Milk Hall Times 6th

## DADDY!

まず最初に、私の父のことを書かねばならない。彼(父)は中学2年生でバイクに乗り始め、42才になった今日でも、喜々としてそれら乗り回しているという、趣味範囲の非常に狭い人間である。次に、私自身のことを書かねばなるまい。今年、20才になるにもかかわらず、まだ予備校に通っている、つまりは2浪しているわけである。さらに付け加えるならば、私はバイクそれ自体の所有はおろか、それを運転することさえも法的に認められてはいないのだ。

以上2つの事柄が家という同一空間において存在しているというこの事実、もはや「悲劇」という言葉をもって理解(説明)するより他はないのである。

いざバイクのこととなると精神に異常をきたし(バイクキ印という)、私が「中学生の自分から「早く免許をとれ、とれ、とれえい」と呪文のようにとなえ続けてきた彼にとって、浪人している為、16才から5つ歳を重ねた今になって、運転免許の「きよ」の字すら口に出せない私の存在は、プラスチックの種にすぎないはずである。なにせ彼は、田舎芝居の大根役者のごとく、遊び好きな物わかりのいい父親と、頑固で厳しい父親というこの相矛盾する2つの役柄を一人で演じているのだから。まったく、出来の悪い息子を持った父親は悲劇である。私は日々おくやみを申し上げるしかない。

しかしまた別の悲劇が、彼のそれを受けて私の中にも姿を変えて存在しているのだ。よく「親の心子知らず」などというが、親の心が痛い程分かっているながらも、それをどうすることもできない孝行息子の、おそろくマリアナ海溝級のこの深い悲しみを、はたして彼は察しているのだろうか。気の弱い私は、とりあえず大学に合格してから、それをきいてみようかと思う。

ともかく、彼は今夜も夢の中で、大学不合格の通知達に追われながら、暗闇の中を独り、バイクで逃げ回っているに違いない。



いつもオーケションで活躍して下さい有難うきつと合格するように皆で応援しています